

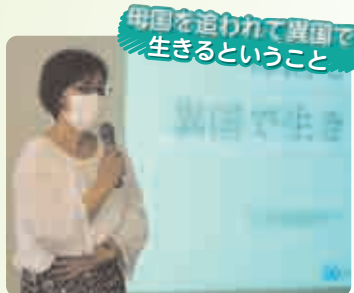


# 「発見!体験!地球市民キャンパス」を開催しました!

NIC地球市民教室とは? 外国人講師やNGO・NPOスタッフなどが学校や地域に出向き、異文化理解を深めたり、SDGsの目標達成に向けて地球や地域のさまざまな課題について考える講座を行っています。



▲言葉や歴史、食文化などをテーマに、現地の人々の素顔を紹介するNIC地球市民教室講師のベレジナイ・ビタリーさん



▲ウクライナで撮影した写真を見せながら、現地の人々の生活や紛争について語るNPO法人チェルノブイリ救援・中部の戸村京子さん

## 「難民のカバン」ワークショップ

「逃げる途中で荷物を減らさなければならなかったら、あなたは何を持っていく?」をテーマに、難民・避難民について考えるワークショップを行いました。参加者からは「言葉も通じず、文化も違う他国での衣食住を想像すると不安に感じる」などの声があり、母国を追われて生きることを考える機会となりました。

「日に日に今逃げるべきではと悩む。でも、どこへ?逃げるリスクを冒す必要があるのか、それともここの方がリスクは高いのか。私たちがどうなりますか?以前は1年間の計画が立てられたが、今後は1時間後すら計画できない...10日になって4発の砲撃が私たちの街に着弾した。その状況でどう逃げる?外は雨。他に選択肢はない。逃げよう。ミサイル弾による火災、悲鳴を上げる人々。私たちはどこに行くかわからないまま進んでいた」(ビタリーさんが紹介した避難民の方の声)

住み慣れた故郷にもう戻れないかもしれないとしたら、あなたはどうしますか?



皆さんも学校やグループの集まりで、世界や地域のことを知り、体験し、考えてみませんか?

NIC地球市民教室について

問 交流協力課 ☎052-581-5691(月曜休館) ✉koryu@nic-nagoya.or.jp

詳細はこちらをご覧ください! >>>



# インターンシップを振り返って

NICでは現場体験を通して視野を広げる学生インターンを受け入れています。6月から約5か月にわたって参加した、名古屋市立大学の柳 和歌さんが自身の活動を振り返りました。



実りあるインターンシップでした!

私は、主に「グローバルユースカフェ」\*1(以下、カフェ)の企画・運営に携わりました。

5か月という期間の中で、カフェのメンバーたちとともにさまざまなイベントを実施しました。一つひとつの意義を考えながら進めることができたと思います。



夏祭りのイベントにて

多様な国籍や年齢の若者が集う交流会や夏祭りイベントでは、「居場所づくり」を目的として行いました。参加者の「楽しかった!」という声を聞くことができ、達成感を覚えました。

また、「グローバルユースフォーラム」\*2では、参加者が「自分を振り返り、グローバル人材として一歩踏み出す」ためのワークショップを考え、メンバーとともに進めました。今まで、これほど大きなイベントを企画したことはなかったので、事前準備の多さに驚きましたが、学生ではできないような貴重な体験ができました。NICのインターンを通して、効果的な広報や説得力のある説明の仕方など、いくつかの学びを得て、私自身もグローバル人材として成長できたと思います。この経験を活かして、今後も活躍していきたいです!

\*1 15歳から35歳の若者が定期的集い、さまざまなアイデアを出しながらイベントなどを企画・運営する「行動の場」。 \*2 詳細はP.6をご覧ください。

# 9月24日(土) グローバルユースフォーラム 不確実で多様化する世界をどう生きる?



京都精華大学 教授 ウスビ・サコ氏

「グローバルユースフォーラム」は、若者の視野を広げ、世界へ踏み出す初めの一歩を応援するイベントです。今回は西アフリカのマリ共和国出身、京都精華大学前学長で教授のウスビ・サコ氏による「[これからの世界]をいかに生きるか」をテーマとした講演の後、「グローバルユースカフェ」\*のメンバー(以下、カフェメンバー)による「価値観」をテーマにワークショップを実施しました。

## 現状 「同調圧力」が生み出す「均一的」な日本社会

さまざまな文化が入り混じるグローバル化が進む中、日本では、教育や育児現場などあらゆる場面に存在する同調圧力により、均一的な社会が形成されつつあります。そして、他者に関わるうえで、年齢や学歴、文化などで自分の位置を「枠」に収め(フレーム化)、その枠外の人に対して排他的になる。誰もが何かしらの特徴をもっているのに、個性的であることに不自由を感じる社会だと思います。

## 解決策 ヴォイス 自己を知り、自分のVOICE(言葉)で生きる

「みんながそうだから」、「親がそう言うから」—あなたは他人の言葉や価値観で生きてはいませんか。異なる者同士が同じ社会に存在するということをまずは「認識」する、そして「自分を知ること」が、これからの時代には重要です。「自分は一体何者なのか」を意識して自己を理解し、それを受け入れることで、自身のブレない軸をもつことが大切。社会が期待する自分を演じる必要はありません。さらに、自分を受け入れることは、他者をも受け入れることにつながるのです。

## 手段 身近な異文化に触れる

学校や職場などで「身近な異文化」に気づき、自分の言葉で他者と対話してみてください。他者との出会いは自身の再発見につながるものです。私は、学生たちが外の世界に触れて、地域の方々と関わる機会を積極的に推奨してきました。

## 新時代を生きる皆さんへ —「答えを求める」のではなく「問いを立てる」

「自分の変化」を怖れず、そして常に「問いを立てる」ことです。日本の教育は、何かというと「答え」を探す/教えることに終始してしまっているように私には感じます。世の中には答えがないものなんてたくさん。そうした答えのない不確定な社会状況においては、論理的な回答だけではなく、問いを立てる能力がそもそも大事なのです。



## カフェメンバーによるワークショップ



## ワークショップ参加者の声

- ・私にとって「新しい」と「楽しい」が一緒のことだと気づいた!
- ・自分は自分しかいないから、まずは自分を大切にしましょね。
- ・年齢がさまざまな、初めて出会った参加者と心の内面を出して話せたことに驚いたし、嬉しかった。



NIC Global Youthプロジェクト

## ワークショップを企画運営したカフェメンバーに活動の感想を聞いてみました!



活動する中で何より楽しい!と感じる瞬間は「異なる意見に出会えたとき」と「他者とつながったとき」。特に企画段階では、メンバーの互いの意見や性格の違いを感じる場面が多々あります。しっかりタイプもいれば楽観的タイプも。さまざまな「違い」があるからこそ、良いものを創造できると気づけたのも、この「カフェ」から得られた経験です。多様な人や環境のもとでひとつのものを作り上げることは容易ではありませんが、難しさの中にも楽しさを感じ、アイデアが形になっていく過程に魅力を感じています。そして、カフェメンバーだけではなくイベント参加者ともつながることができ、とてもうれしいです。

\*P.5「NICレポート」\*1を参照。